

令和5年度全国学力・学習状況調査より
校内全体研修会(各教科:今後の取組の方向性の考察) 2023.10.11(水)

1 分析の概要 ○…良かった項目について ●…課題のあった項目について

【国語科】

○良かった項目について

- ・2三「思考・判断・表現」(読むこと)について、文章で述べられている内容について、的確に捉えることができている。
- ・3二「知識・技能」について、内容のまとめを的確に捉えることができている。接続詞を見分け文と文との関係を理解していることがわかる。また、後半の内容を的確に捉え、見出しに表すことができている。
- ・4二「知識・技能」について、知識として、古文の重要な語句の意味を理解しているとともに、古文、現代語訳を文脈に即して捉えることができている。

☆前回と比較すると、読み取る力については伸びており、「知識・技能」についても比較的身についていると考えられる。

●課題のあった項目について

- ・1四「思考・判断・表現」(話すこと・聞くこと)について、無回答率が大変高い。このことが、全体の正答率を下げている。まず、記述に取り組もうとする意欲が求められる。また、正答にならない理由として、条件の一方である「自分がどのようなことを考えたのか」を満たしていない答えが多かった。何を答えればよいのかを判断する力が必要である。
 - ・2四「知識・技能」「思考・判断・表現」(読むこと)についても、無回答率が高いことが、正答率を下げている。条件の一つである、「自分の経験や知識に触れて書く」ことができていない。
 - ・4三「思考・判断・表現」(読むこと)についても同様である。条件の一つである「表現を取り上げて」という段階を満たしていない。
- ★何を、どのように答えればよいかを読み取る力が必要(条件を満たすこと)である。
★自分の知識や経験を伝える力が必要である。

【数学科】

○良かった項目について

- ・図形の性質を考察する場面での、空間における直線や平面の位置関係や、データに基づいて不確定な事象を考察する場面での、度数分布表における累積度数や、箱ひげ図における四分位範囲などの基本的な部分については、教科書やワーク等で繰り返し演習ができていたため知識の定着が図っていた。

●課題のあった項目・無回答が多かった項目について

- ・記述式で答えなければならない問題は、正答率が低く、無回答が多い。問題文が長く、問題全体を理解できていないことが要因と考えられるが、授業における数学的活動を通して思考力、判断力、表現力を身に付けることができるようにならねたい。

【英語】

○良かった項目について

- ・短い英語を聞いたり読んだりして、正確な情報を得る力がついている。

●課題のあった項目について

- ・5(2) :「事実」と「考え」を区別する方法が分からなかった生徒やキーワードの should(～するべき)という表現が定着していない生徒が多かったと考えられる。
- ・6: 文と広告を照らし合わせる問題であったが、しっかり文を読まず、大きい字だけを見て判断してしまった生徒が多かったと考えられる。
- ・9(1)②:既習の文法事項を実際のコミュニケーションの場に生かすことができていない。
- ・無回答が多かった2問については自分の考えを書く問題であった。自分の考えを英語で表現することに対して苦手意識が強いことがうかがえる。

- ・8(2)の無回答が特に多いのは、語数指定がなく、「簡潔に書きなさい」というあいまいな指示であることから、求められている答えのイメージがつかめず、必要以上に難しく考え、切り捨てた生徒が多かったからではないかと考えられる。

【生徒質問紙】

○良かった項目について

- ・「学校に行くのが楽しい」と答えている生徒の割合が高い。これからも「生徒と教師がともに汗し、登校することを楽しみに思える学校」づくりを進めていく。
- ・「自分にはよいところがあると思う」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と答えた生徒の割合が高い。増加した要因を検証し、いかしていきたい。

●課題のあった項目について

- ・「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりに勉強をしている時間」が全国平均を下回っている。家庭と学校とで連携し、学習時間・学習環境の改善に努めていく必要がある。

2 これらの分析を受けて各教科今後の取組の考察

【国語科】

- ・ICT を活用し、自分の考えをまとめて伝えあつたり、比較したりする学習活動を設定する。
 - ・無回答への対策として、スマールステップで正確に書く手立てを示し、「何を」「どのように」書くか、キーワードの設定などの条件を具体的にして書かせたり、自分の経験や知識を表現したりする機会を増やす。
- 全教科で、知識を活用して表現する力をつけていかねばならない。授業の中に、得た知識や、自分の経験と関係づけて考える場面を設け、それを表現する学習活動を設定するように取り組む必要がある。

【数学科】

- ・数と式では、事柄が成り立つ理由を事象に即して説明できるようにすることが課題である。そのために、事柄の意味を事象に即して読み取り、根拠を明確にすることが大切であるので、授業において考えを発表する場の充実を図っていく。
- ・図形では、事象を多面的に見ることができるようにすることが課題である。そのために、事象について様々な性質や関係を捉えることが大切であるので、授業においてグループで話し合う活動の充実を図っていく。
- ・関数では、日常的な事象を単純化して、その特徴を的確に捉えられるようにすることが課題である。そのため、実際のデータを表やグラフに表すことが大切であるので、授業においてペアで話し合う活動の充実を図っていく。
- ・データの活用では、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるようにすることが課題である。そのため、データの傾向を的確に捉えて判断することが大切であるので、授業において考えを発表する場の充実を図っていく。

【英語科】

- ・新しく習う文法事項が実際にどのようなシチュエーションで使われるのかを意識させる必要がある。場面設定がされた言語活動や、前後の会話の流れがある英作文の問題に取り組む機会を増やす。
- ・キーワードやテンプレートを参考にしながら、自分の感想や意見を英語で言ったり書いたりする機会を増やす。
- ・まとめた文を読んで、それについて賛成、反対を述べるような活動の機会を設ける。

【社会科】

- ・社会的知識、基礎的な言葉の説明をペア学習などで頻繁に行う。
- ・小テストなどを単元ごとに行い、知識の定着を頻繁に行う。

- ・グループワークなどでお互いに発表しあう、アウトプットの場面を増やす。
- ・グループワーク内で話し合った内容を発表する場を設ける。

【理科】

- ・毎時間振り返りの時間を作る。その中で、重要単語を使って文章を書くなどの取り組みもしていく。
- ・教科書等を読み、読むことになる。

【音楽科】

- ・歌唱活動の中で、歌詞の内容を感じ取り、表現活動につなげる活動を行う。
- ・鑑賞活動の中で、知覚した内容と自分が感じたことを結び付けた鑑賞文を書く時間を設ける。

【美術科】

- ・板書での工夫をする。
- ・動画や画像での工夫をする。
- ・鑑賞での構想例の提示をする。

【保健体育科】

- ・近年では、「書く力」の向上に重点を置いて取組んできた。そのため、以前に比べて「書くこと」への抵抗感は少なくなり、「書く力」も着実に向上してきている。また、ICT機器やホワイトボードなどを活用し、視覚的に支援しながら、イメージや根拠をもって取組む生徒が増えてきている。全国学力テストの結果を受けて、「問題解決能力」に弱点があると考え、保健体育科としては、授業の中に、得た知識や、自分の経験と関係づけて考える場面を設け、それを表現する学習活動を設定する。

【技術家庭科】

- ・根拠を考える機会の設定
- ・失敗を恐れない習慣をつける
- ・失敗から成功に結び付け、達成感を味わわせる。
- ・作業工程を細かくし、目で見てわかるようにする
- ・個人への声かけと全体への指導を適宜行う。
- ・自分で考える時間を作る